

大府市議会

無所属クラブ 議会レポート

2025
AUTUMN 秋

YOUR VOICE

あなたの声が、まちを動かす力になる。

党籍なし完全無所属

大府市議会議員 宮下しんご



【令和6年度一般会計決算】



「第6次総合計画」前半期間の総括を生かして—

◆本会議質疑

Q 令和6年度当初に実施した組織改正について、新設や名称変更により期待していた効果をどのように検証したか？

A 実施計画において検証するとともに、各課の現状を個別にヒアリングした。こども・子育て施策の木育など、様々な新規施策を推進するにあたり、組織を横断した調整が進み、関係団体との連携も円滑になったと評価している。

Q 定数条例の枠内で部署を増やす以上、それぞれの人員配置は相対的に薄くならざるを得ないと理解するが、このようなトレードオフをどのように捉え、最低必要人員や兼務、バックアップ体制等、組織編成や組織運営の設計において、業務継続や市民利便性に影響を及ぼさないよう、適切な配慮にどう取り組んだか。

A 組織の人員配置については、定数条例の範囲内で効率性を最大化するよう設計するとともに、課内・部内で横断的な職員の協力体制を整備することで、部署によって異なる繁忙期と閑散期に対応した柔軟な人的資源の活用を図った。

◆賛成討論

＝組織改正について＝

令和6年度の組織改正の効果検証について、部局横断的な調整や関係団体との連携の一層の円滑化といった効果が答弁で示され、それらが柔軟な人員の運用のもとで実現したものであることを了解した。

7年度の組織改正に向けた準備についても、市民ニーズの多様化や社会情勢の急速な変化への対応といった課題への明確な認識が確認でき、高く評価する。6年度当初に農政課を農業振興課に改めたほか、7年度から福祉総合相談室を福祉まるごと相談室に見直すことを決定するなど、市民にとって分かりやすい名称変更が進められてきたことを評価する。

組織の名称や表現については、引き続き、市民に届く、分かりやすい用語の選択を行う観点が必要であることを、意見として申し添える。

＝基金運用について＝

「今年の税は今年の行政サービスへ」という基本的な方針は、長年積み重ねてきた本市の財政経営の原則と理解する一方で、計画的に積み立て、運用によって利益を生み、その果実を


然るべき時期に市民へ還元することが、中長期的に見れば市民利益を最大化し得る場合もある。

令和6年度の基金運用による利子収入は、5年度の2倍以上の伸びとなったが、金利環境の転換が主な要因であり、足元では物価高騰が続く局面にある。こうした金利と物価の状況を冷静に踏まえ、少しでも有利な条件での運用を追求することは、基金の相対的な目減りを防ぎ、市民に還元できる原資をより大きくするために必要な努力である。

＝総合計画の後半期間に向けて＝

岡村市長のリーダーシップと、職員の献身的な尽力により、物価高騰などの社会経済情勢の変化に迅速な対応が図られてきた結果、市民意識調査においても、「大府市に住み続けたい」との回答が引き続き約9割に上った。

「第6次総合計画」前半期間の総括を踏まえて打ち出された施策が円滑に遂行され、一つひとつが着実に成果を挙げることで、今後も市民満足度の高い市政運営が継続されていくことを期待する。



リチウムイオン充電電池を使用した家電の
普及が急速に拡大中—

より安全な回収方法の検討を

YOUR VOICE
SPECIAL

9月定例会 一般質問

特集

Q リチウムイオン電池および、その使用製品の収集方法について、ライターやガスボンベ等とともに発火性危険物に分類し、出し方などを見直すことについての見解はどうか？

A 近年、リチウムイオン電池が原因とする廃棄物処理施設やごみ収集車の火災が全国で発生しており、深刻な被害を及ぼすケースもある。リチウムイオン電池がほかのごみに混在して衝撃を受け、発火するといった誤った分別によるものが原因の大半であり、誤って処理した場合の危険性や被害の大きさを市民の皆さまに理解していただくため、広報おおぶやパンフレットなどによる啓発をさらに強化する。また、分類や出し方については、分かりやすく出しやすい方法であるべきと考えていることから、回収拠点

の増設など、市民の皆さまの利便性を高める方法を検討していく。

Q 資源回収品目に陶磁器を追加することについての見解はどうか？

A 6月に開催したリユース品の回収イベントでは、約4トンのリユース品が集まり、最も多かった食器・キッチン用品の占める割合は約38%であった。一方で、割れや欠けのある食器はリユースに向かず、どれくらいの量が集まるかは未知数であること、リサイクルルートの確保や運搬・処理コストなど、多くの課題がある。次回開催するリユース品回収イベントで、割れや欠けのある食器も試行的に回収し、実績を把握したうえで、リサイクルの手法や費用対効果などを調査、研究していく。

Q 持ち去り行為の禁止対象を資源物以外にも拡大する条例改正についての見解はどうか？

A まずパトロールや注意喚起など、持ち去り行為を防止するための対策をさらに強化するとともに、警察とも情報共有、連携を行い、不審者を寄せ付けない対策を講じていきたい。条例改正については、自治体や地域ごとに、ごみ出しルールや持ち去りの状況が異なることから、引き続き、本市の実情に即した対応方法を調査、研究していく。

